

2025年11月11日

各 位

会 社 名 宝ホールディングス株式会社
 代 表 者 名 取締役社長 木村 睦
 (コード番号 2531 東証 プライム市場)
 問 合 せ 先 広報・IR 部長 宇佐美 昌和
 T E L (0 7 5) 2 4 1 - 5 1 2 4

2026年3月期の連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2025年5月13日に公表した2026年3月期(2025年4月1日～2026年3月31日)の連結業績予想を下記のとおり修正しますので、お知らせいたします。

記

1. 2026年3月期 連結業績予想数値の修正 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰 属 する 当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A) (2025年5月13日公表)	401,000	21,900	22,200	16,300	83円48銭
今 回 修 正 予 想 (B)	392,000	16,200	15,700	11,100	57円43銭
増 減 額 (B-A)	△9,000	△5,700	△6,500	△5,200	-
増 減 率 (%)	△2.2	△26.0	△29.3	△31.9	-
ご参考:前期実績 (2025年3月期)	362,693	20,597	22,180	16,202	82円98銭

2. 修正の理由

当社グループの主要セグメントの売上高は、宝酒造インターナショナルグループは海外酒類事業の伸長や、海外日本食材卸事業のM&A効果による業績の上乗せもあり、ともに前回予想を上回りますが、宝酒造では焼酎などの減少、タカラバイオグループでは世界的なライフサイエンス研究市場が引き続き低迷することが見込まれることや、日本における受託事業の新規案件獲得の未達などにより、いずれも下回る見込みです。以上の結果、当社グループ全体でも前回予想を下回る見通しです。

営業利益は、宝酒造では売上総利益が下回るものの、販売費及び一般管理費の効率的な運用により前回予想を上回り、宝酒造インターナショナルグループは、海外日本食材卸事業が競争激化と販売費及び一般管理費の増加により前回予想を下回るものの、海外酒類事業が好調に推移し、前回予想を上回る見込みです。タカラバイオグループについては、売上高の減少の影響が大きく、営業損失となる見込みです。以上の結果、当社グループ全体でも前回予想を下回る見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券や固定資産の売却等により、特別利益が増加しますが、タカラバイオグループの減損損失等による特別損失の増加や、繰延税金資産の一部取り崩しにより、前回予想を下回る見通しです。

事業セグメントの予想値の詳細につきましては、本日公表の「2026年3月期 第2四半期(中間期)決算 短信補足資料」(PAGE10/15～13/15)をご参照ください。

また、本日、当社の連結子会社であるタカラバイオ株式会社(コード番号 4974 東証プライム市場)も、2026年3月期の連結業績予想を修正しております。

※ 上記の予想は、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、これらの数値とは異なる可能性があります。

以 上

当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。